

別紙ヲ以得御意候、然ハ先頃拙姓義

其御地江立寄之節御内話致シ候通、

( 鈴 木 )

重右衛門殿・仲太郎殿より被申出候、

前々より之御用立金并昨年来諸入用金多分

之出金ニ而、村々甚難渋ニ付、追々ニ而も

宜下ケ金有之候様被致度被申聞候段、

歸府之上申上置候処、被成御承知尤之

事ニ思召、昨年收納御渡りニも相成候ハ、

何程歟内金御下ケ可被成様思召ニ候処、

先日得御意候通、案外御手違ニ相成甚

御当惑之中、禄制被 仰出減石高二相成、

以後御暮向如何様御省略ニ而も御六ヶ敷

御心痛不少候、就而者右御下ケ方当分

御見込も無之存、御気毒二者思召候得共、乍

御迷惑勘弁ニ預り度旨重右衛門殿始

村々宛今便得御意候間、御承知之上

御相談有之候ハ、尚宜御評議御頼申候、

此段被 仰付候書外後便万々可得御意、取込中早々

以上、

十二月廿四日

(鈴木)

六太夫様

(山本)

勢左衛門